２０２６年度三重大学大学院人文社会科学研究科（修士課程）入学試験問題
試験科目［　社会人特別入試・小論文　］

【設問】以下の文章は，ある人が好きなときに好きな場所に移動できる自由がどの程度あるか（移動資本）に着目し，移動資本の不均等やそれが社会にもたらす影響について論じるものの一部である。この文章を読み，問に答えよ。

古くから，「成功は移動距離に比例する」「成功者は移動量が多い」といった類いの格言がある。これが本当ならば，好きなときに，好きな場所に，好きな方法で行ける，移動資本が高い人（移動強者）は「成功者」であると言えるかもしれない。逆に，移動したくてもできない，移動手段が限られている，生まれた地から出たことのない移動資本が低い人（移動弱者）は「凡人」もしくは「負け組」なのかもしれない。

しかし，果たしてそんなことはあるだろうか？たくさん移動を経験すると，人生が有利に進むのだろうか？移動資本が高ければ，人は成功者になれるのだろうか？

作家で編集者の長倉顕太が 2024 年に書いた『移動する人はうまくいく』は，移動強者＝成功者を全面に押し出したことでヒットした。ある業界の成功者でありトップランナーであると自称する著者は，「移動力」という考え方を提唱する。それは，環境を切り替える力であり，環境を変えることで，行動が変わり，人生が変わり，成功する力だという。

移動することで成功する，移動することで成長する，移動することで人生が変わる―成功者と言われる人の中には，類似の主張をする人は多くいる。

『世界標準の経営理論』などで知られる経営学者の入山章栄も，インタビューの中で「発想力は移動距離に比例する」と語っている。異質な知と知を結びつけるのがイノベーションであり，そのためには普段接していないものを見つけ，そこから知見を得なければならない。入山によれば，発想力に優れた人はさまざまなイベントに出たり，遠くに旅行に行ったりしており，発想力はその人の移動距離に比例するのかもしれないというわけである。

「移動距離が成功を導く」「移動がイノベーションを生み出す」という主張は，多くの場合，経験則や直感に基づいて語られることが多い。デジタル化が進み，移動しなくてもできることが増えているからこそ，移動することで偶然な出会いやつながり，発見が生まれる。そして，それがイノベーションにつながるというわけである。

しかし実は，特定の分野では，学術的にも古くからこの手の議論はされてきた。たとえば，移民がもたらす経済効果や起業に関する研究は，多くのことを私たちに教えてくれる。

経済学者のペトラ・モーザーらは，特許出願数と取得数を調査することで，ナチス・ドイツから逃れたドイツ系ユダヤ人が，アメリカの特許取得数に大きな影響を与えたことを明らかにした（Moser ほか：2014）。同じく，アメリカにおける特許データを分析することで，イノベーションのうち高スキルの移民が直接的に発明したものが 15%，間接的な影響によるものが 23%で，38%程度の発明が高スキルの移民によるという研究もある（Bernstein ほか：2022）。

さらに，米国の移民は，米国生まれの市民よりも米国で起業する可能性が 80%高いという研究結

果もある（Azoulay ほか：2022）。2006 年から 2012 年の間にベンチャーキャピタル投資を受けて株式を公開した企業の 33%は創業者の少なくとも一人が移民であること，アメリカの主要企業の 40%は移民かその子どもによって設立されていること，2016 年にはユニコーン（時価総額 10 億ドルを超える稀有なスタートアップ企業）の半分が，移民の設立した会社であることも明らかにされている（Diamandis and Kotler：2020）。

こうした研究成果から，何が見えてくるだろうか。一見すると，「国境を越えて移動する移民は成功者になりやすい」と読めるが，そこに共通しているのは「移動は高度人材のアントレプレナーシップ（起業家精神）を高揚させる」という点である。移動経験によって機会の認識能力が磨かれ，アントレプレナーシップが向上し，イノベーションが活発になるという説明が成立するわけである（安田：2013）。

ただし，紹介したうちいくつかの研究は，すべての移動がアントレプレナーシップやイノベーションと関連するわけではないことを，はからずも教えてくれている。

何度も登場する「高スキルの移民」「高度人材」という言葉が示すように，移民の中でも専門性や能力がもともと高い人々を前提に調査や議論が行われているケースが少なくないからである。つまり，「移動はアントレプレナーシップを高める」というより，「移動は“高度人材”のアントレプレナーシップを高める」のであり，「移動がイノベーションを生み出す」というより，「移動が“高度人材”のイノベーションを生み出す」のである。

そうなると，なぜ高度な専門性やスキルが，「成功」への移動の効果を高めるのだろうか。移動自体はもちろん重要だが，移動から生まれる“何が”成功の可能性を高めているのだろうか。ここで鍵を握るのが，「ネットワーク資本」である。

ネットワーク資本とは近くにいる人だけでなく，「必ずしも近くにいない人々との社会諸関係を生み出し維持する力」（Urry:2007）である。ネットワークを活用し，インターネット上の情報から得た知識を活用したり，オンラインの関係を作って維持したり，必要な資源を得るための友人と友人との間接的なつながりも含めたオンライン・オフラインのつながりを指す言葉である。

なぜここでネットワーク資本に言及したのか。それは，高い水準でネットワーク資本を有する人々は，高いレベルで地理的な移動を経験しており，興味深いことに，他の人にもかなりの移動性の高さを要求するからである（Elliot and Urry:2010）。つまり，社会的に成功者であると言われたり，そのことを自負したりする人の中には，「移動＝成功」を他者に押し付けたがる人がいるのだ。この理由が，ネットワーク資本から説明できる。

インターネットが普及したことでオフライン・オンラインを含む多様な移動が自身の多様なつながりを拡張し，蓄積できる時代に成功したからこそ，移動＝成功を押し付ける成功者は，ネットワーク資本を重要なものと認識し，それを口にするわけである。

さらに，ネットワーク資本は，成功者をさらに成功者にし，貧者をより貧者にする，そういった社会的不平等を再生産するメカニズムも有している。このことは，世界で最も裕福で移動性の高い 300 人の人々が，最も貧しく移動性の低い 30 億人と同じ収入を得ていることからも分かるだろう（Elliot and Urry:2010）。移動資本とネットワーク資本によって富めるものはどんどん富み，格差が拡大していくわけである。

また，裕福で移動性の高い人々のネットワークは，とくに女性や社会的弱者，ネットワークのメンバーシップに入れなかったり維持できなかったりする他者を，しばしば社会的に差別するような性質もある。実際，資産 3000 万ドルを超える超富裕層のプライベートジェットの所有状況を中東を中心に調査した結果によれば，男子の所有率が 96.8%であり，女性はたったの 3.2%であった（WEALTH-X:2023）。

移動と成功をめぐる議論には，もう一つ，よく聞くパターンがある。それは，「移動中の時間を無駄にしない人が成功する」という“移動時間術”に関するものである。

よくあるのは，移動時間は読書するべき，最新ニュースをチェックするべき，メールの返信は移動中に行うべきなどの“ハック”である。一見すると，これらはスマホが登場し，Z 世代のタイパ（タイムパフォーマンス）重視が叫ばれる現代固有の主張に思われるが，調べてみると数十年前の本でも同じような主張はされていた。

ただ，パソコンとインターネット，そしてスマートフォンの登場と普及が，これらを利用できる人々，駆使して仕事をする人々の生活様式や働き方，さらには自己と他者の新しい関係の形式をもたらすようになったことは明らかである。パソコンやスマートフォン，電子タブレットやスマートウォッチなどといった「小型化されたモビリティーズ（Elliot and Urry:2010）は，高まる「移動しながらの生活」を促し続けている。

小型化されたモビリティーズに浸食された世界では，移動時間は移動をしながら遂行される仕事，ビジネス，レジャーなどの活動を中心にまわるようになっている。つまり，今日の輸送システムと新しい情報伝達技術の間に存在する複雑な結びつきが意味するのは，移動時間は個人にとって退屈で，非生産的で，無駄な時間ではなく，むしろ，職業上あるいは私的な活動において生産的に使われているという事実である。

小型化されたモビリティーズの普及と新しい情報伝達技術が生み出した即時性，グローバルなデジタル・ネットワークの広がりは，以前の移動時間術とは次元を異にするレベルで，移動時間を生産的な時間へと変えた。生産性の向上と無駄の排除が高い価値を持つようになった現在，小型化されたモビリティーズの登場と普及が合流したことで，ますます成功するための移動時間術が広く支持を得ているのである。

こうした流れは，個人レベルの実践にとどまらず，商品やサービスの世界も侵食している。たとえば，コロナ禍を経て，鉄道各社が車内で作業する人向けの車両を導入・拡充したことは象徴的である。JR 東日本はワーク＆スタディ優先車両 TRAIN DESK を導入したが，紹介文に登場する一節「新幹線での移動時間を，仕事や勉強・読書などの自分時間として有意義に活用したい皆さまへ。」は，移動時間の生産性向上＝有意義とする価値観を提示している。

でも立ち止まって考えてみると，不思議な話である。本来，移動時間に何をするかは，個人の自由である。ぼーっと窓の外の景色を眺めることも，目を閉じることも，読書をすることも，仕事をすることも，本質的に意義に優劣はない。

しかし，こうした広告とサービスは，明確に「何もしない移動」「成長や仕事につながらない移動」を価値の低いもの，移動中に作業や仕事ができることを意義の高いものと位置付けている。生産性やタイパの向上を目的とする移動時間術は，それ自体が“生産性至上主義”と結びつき，商品化され，

提供されているのである。

ここまでみてきたように，「成功したいなら移動せよ」という主張は，多くの場合，自身が異動とネットワーキングによって成功し，移動時間でさえも無駄にしなかったという自信と自負によって支えられている。

そうした自信と自負は，実力もしくは能力によって達成されたと認識される傾向にある。表現を変えよう。移動をめぐる格差や不平等が在する社会において，高い移動性を有し，それを実現する人々の多くは，自身の移動資本やネットワーク資本，それらがもたらした成功を，“道徳的に正当なもの”だと思っているのである。

なぜこうした発想に至るのか。それは，グローバル化と新自由主義に覆われた21世紀の社会が，イノベーションやアントレプレナーシップ，成長の追求，そして移動を重要な価値としているからである。しかし，実はほかにも「成功したいなら移動せよ，なぜなら私はたくさん移動したから成功したのだ」という確信と論理を支える一種のイデオロギーが存在する。それが能力主義（メリトクラシー）である。

能力主義は，イギリスの社会学者マイケル・ヤングが著書『メリトクラシー』で世に送り出した概念である。個人の能力に基づいて社会的地位や権力が分配されるべきという理念と，それに基づく社会を意味する。

それでは，能力主義という観点から人々の移動を考えてみよう。

階級や階層を超えて，すべての人が能力・実力だけに基づいて移動する／できる平等な機会を手に入れたら，どんな世界になるだろうか。素直に考えれば，それは理想的な世界に思われる。社会階層が低い労働者階級の人々が，社会階層が高い特権階級の人々と肩を並べ，公正に競いあったうえで高い移動資本を獲得し，オンライン・オフラインを問わず好きなときに好きなところに移動できるようになり，移動資本を蓄積していくのだから。

しかし，残念ながら，能力主義はこのような理想的な移動をめぐる状況を実現できない。能力主義がはびこる眼の前の社会を見れば，わかることである。なぜなら，勝者の中にはおごりを，敗者の間には屈辱を育まずにはおかないからである（Sandel:2020）。

勝者は自分たちの移動や人脈，成功を「自分自身の能力や努力，優れた実績の結果に過ぎない」と考え，自分よりも移動しない人々を見下すだろう。そして，成功していると感じない移動性が低い人々は，こうなった責任は自分にあると思ってしまう。

ヤングにとって能力主義は目指すべき理想ではなく，社会的軋轢を招く原因だったが，今日，移動をめぐる格差や不平等についてもそうした分断や軋轢を招く状況が広がっているのである。

結局，「成功したいなら移動せよ」という主張の何が問題なのか？答えは，実力や能力以外の構造的な不平等や環境要因によっても，人々の移動資本やネットワーク資本は成り立っているからである。

心身に障害があったり，目が離せない子どもがいたり介護が必要な家族がいたりすれば好きなときに出かけることはできない。稼ぎが少なく移動に充てられる金銭的な余裕がなければ海外旅行はおろか国内旅行も難しい。移動をめぐる機会と可能性は，ジェンダーや階級社会階層，国籍，エスニシティ，生まれ育った地域といったものに強く規定され，影響を受ける。移動による成功も失敗

も，決して“自己責任”ではないのだ。

もっと言えば，移動力を発揮して成功するという思想は，好きなときに好きな場所に移動できる，極めて限られた特権的な人間を中心とした思想なのである。

移動をめぐる自己責任や能力主義，生存者バイアスから抜け出すには，移動が困難であったり，自分とは移動をめぐる状況が異なったりする人がこの世界にいることへの想像力を働かせることが大切だ。そして，移動をめぐる格差や不平等の実態を知ることが，過剰な移動崇拝と移動がもたらす成功神話を解体していくことにつながるはずである。

伊藤将人『移動と階級』（講談社現代新書，2025 年）109～122 頁より一部改変

【問１】　筆者によると，移動が成功や成長をもたらすという主張が妥当するのはどのような場合か，「移動資本」と「ネットワーク資本」を用いて，400 字程度で述べよ。

【問２】　筆者は，移動と成功を結びつける思想がなぜ社会に分断や軋轢をもたらすとしているか説明し，それを踏まえて移動資本の不均等についてあなたの考えを 600 字程度で述べよ。